

ぶらりわが街宮沢界限

⑱ 住宅化で遺跡の確認調査により発見 浄土(じょうど)古墳群・大神古墳

- 浄土古墳群「浄土遺跡公園」(田中町2-3)一奥多摩街道田中町交差点南側の、急な坂道を降りる手前で古墳が発見されました。この辺りは、田中町字浄土と呼ばれていたのが「浄土古墳」と名付けられました。「新編武蔵風土記稿」(*①「宮沢の地名由来」に記載)に、古刹(こさつ)の天台宗「浄土寺」があったと書かれています。また、南を多摩川に下りる急坂を「浄土坂」と呼ばれています。

昭和50年(1975)、この付近が住宅化される情報により、市は、浄土寺跡(あと)を確認するために発掘調査を行いました。調査の結果、寺院跡は発見されませんでした。古墳(1号墳)の石室(せきしつ)が発見されました。

古墳は、地面の下に河原石(玉石)を積んで造られた、竪穴式(たてあなしき)的横穴石室と呼ばれる構造で、長さ5m、床面の幅65~100cmの長方形です。入口は南を向き、奥壁(おくへき)は一枚石の凝灰質砂岩(ぎょうかいしつさがん)で、7世紀後半に造られた、多摩地域の特徴的な終末期古墳と推定されています。埋葬者は不明ですが、一对の金銅(こんどう)製の耳飾りが発見されています。

石室の遺存状態が極めて良かったので、市は史跡に指定し、周辺を買収、「浄土遺跡公園」としました。現在は保存のために砂・土で埋められ、石室の上面だけが地面に現われているが、案内板には発掘当時の石室のようすが写真で見ることができます。また、昭和51年(1976)発掘の「経塚下古墳」の石室は、奥多摩バイパス道路建設のため、「浄土遺跡公園」内に移築し保存されています。(*④「古代遺跡一経塚下遺跡」に記載)

昭和56年(1981)には、古墳の南側から4基(2~5号墳)の小型古墳が発見されました。

これにより、この地域の田中町・大神町付近では、古墳群が形成されていたと思われます。

- 大神古墳(現・グリーンファミール 大神町3-4)一西の拝島町から田中町にかけて展開する、拝島段丘の東端で標高約92mに位置し、拝島段丘面が切り通しの奥多摩街道(都道29号線)の北、JR八高線の西35mの住宅地を発掘調査して、新しく発見され「大神古墳」と名付けられました。平成7年(1995)この地域にあった木造住宅三棟(むね)を取り払って、新しくマンション建設の届出がありました。この地域は、戦時中に、二本の直刀が発見されていて、石室等の発見される可能性があったので、本調査を7月から行われ発見されました。しかし、古墳部分は、建設されるマンションの中心部に当たり、保存は不可能です。そこで、徹底的な分解調査が行なわれ、その結果、直径14mの円墳(えんぶん)。周囲は幅175cmの周溝(しゅうこう)をめぐる。河原石を乱積みの胴張(どうはり)構造の横穴式石室。副葬品(ふくそうひん)は、太刀・鉄のやじり・砥石(といし)など。周溝から土師器(はじき)の杯(つぎ)出土などによって築造の時期は、7世紀前半の古墳と推定されています。

記 防犯宮沢支部会計 西山 禎一

